

出題意図

グローバル企業であるセブン&アイ HD の新社長スティーブン・ヘイズ・デिकास氏の事例を分析し、現代の経営環境において「異文化理解力や多様な文化への対応力」が不可欠な資質であることを考察することを目的とする。日米欧での経験を持つデिकास氏の具体的な戦略（日本市場の客観視、「たまごサンド」の海外展開など）を通して、この資質が企業価値向上とグローバル成長に直結する理由を、論理的な三部構成で論述する力を育成する。

【小論文の例】

経営者に求められる異文化理解力と多様な文化への対応力

現代のグローバル化した社会において、企業活動は国境を越え、多様な人種、文化、価値観を持つ利害関係者との関わりが不可欠となっている。このような状況下、企業のトップである経営者には、従来のリーダーシップに加え、異文化理解力と多様な文化への対応力が必須の資質として強く求められている。

記事で取り上げられたデिकास氏がトップとして注目される理由は、多様な視点を受け入れる姿勢と柔軟な意思決定力にある。彼は異なる文化的背景を持つ顧客のニーズを的確に理解し、それを企業の戦略や製品開発に反映させることで、単一の文化圏にとどまらない真のグローバル展開を実現している。

異文化理解力や多様な文化への対応力が経営者に必要な理由は主に三点ある。

第一に、互いの文化を理解することは、事業展開を成功に導くために不可欠である。世界経済が結びつきを強める中で、企業は海外との交流を避けて通ることはできない。経営者が自国の価値観に固執しすぎると、文化的なコミュニケーションの違いによる誤解や対立が生じ、結果として経営の失敗につながるおそれがある。

第二に、組織内の多様な人材の力を最大限に活かすためである。近年、日本の職場には外国人労働者が増えており、経営者が一つの価値観だけを押しつけば、多様な人材の力を引き出すことはできない。文化や習慣の違いを尊重し、文化や習慣の違いを尊重し、柔軟な働き方を進めることが、企業の成長につながる。

第三に、社会との信頼関係を維持・強化するためである。現代では企業の社会的責任(CSR)や持続可能な開発目標(SDGs)が重視されており、経営には社会の価値観への深い配慮が求められる。配慮を欠いた経営は、社会の信頼を失い、企業ブランドに大きな損失をもたらす可能性がある。

以上のように、異文化理解と多様な文化への対応は、企業が国際社会で発展するために欠かせない。経営者が多様性を受け入れ、価値観を柔軟に統合することで、変化の激しい時代に企業を成功へ導くことができる。